

問わず語りの 人間力原論

高見大介



小さな幸せの連鎖

10月に入り、学生が学内に戻ってきた。休み時間にそれぞれが夏休みの楽しい思い出を語り合っている姿を見て、僕もうれしさが込み上げてきた。友人との旅行、実家で家族と楽しく過ごしたこと、バイト先での出来事など、とても楽しそうだ。

そんな中「申し訳ないなあ」

と思いつつも現代社会の問題を考える硬い講義を始めたのだが、案の定、終わる頃には学生たちの笑顔はなくなっていた。僕は心の中で「ごめんよ」とつぶやきながら帰り支度をしていると、授業前に楽しそうに話していた集団が、今度は真剣な顔をして話している。聞き耳を立てると「私たちだけこんなに幸せそうにしているのだろうか」というような議論だ。

程なくして、その中の一人が僕に声をかけてくれて、議論に加えてもらった。学生の意見が出尽くしたところで「君たちは優しいすてきな心を持っている

ね」と言うと、ごまかされないぞ、と言わんばかりに冷たい視線が僕に。困った僕は話を続けた。

「一つの行動や出来事だけで全ての人を幸せにするのは難しい。でも、みんなの楽しい思い出話で幸せになった人もいることは事実だよ」。現に僕がその一人だ。「だから、小さな幸せを積み重ねていろいろな人を少しずつ幸せにしていると考えてみてはどうだろう」。先ほどまでの冷たい視線は和らぎ、納得してくれた様子に安心した。

自分はこのままでいいのか？というテーマは、どの世代にも

湧き起こる問いだ。しかし、考え込んで自分の幸せを諦めるような方向に向いてはいけない。思い悩む人の幸せを願い、それを幸せと思う人が必ずいるのだから。学生と共に教室を出ると、辺りは薄暗くなっていた。一人の学生が「キンモクセイの香りだ」とつぶやきはしゃいでいるのを見て、また小さな幸せをいただいた気がした。

あなたの幸せは、世界とつながっています。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。42歳。